

解 答

- ⑥ ① 永住 ② 景勝 ③ 肉声 ④ 器官 ⑤ 方便
 裁量 ⑦ 生計 ⑧ おこな ⑨ ふんべつ ⑩ しゅつしょく

問一 ウ ア
 二 ウ
 三 雪子が喜んでくれたことがうれしく、これからもお菓子を持ってくるから遠慮なく食べてほしいという気持ち。
 (五十字)

問四 エ
 五 ウ
 ア

お菓子がなく、まずいおやつを食べる辛さがよくわかり、雪子がかわいそうで、甘くておいしいお菓子を雪子にいっぱい味わわせてあげたいと思ったから。(七十字)

問六 ウ

問一 ウ
 二 エ
 三 イ

「正直者でありなさい。さもないと、ひどい目に遭いますよ」(三十八字)

問七 ウ

問一 ウ
 二 エ
 三 イ

「分別」は「ぶんべつ」とも「ぶんべつ」とも読みます。「ぶんべつ」は「道理をわきまえること。物事の善悪や損得をよく考えること。」という意味です。「ぶんべつ」と読むと「種類によって区別すること。」といった意味になります。

問八 イ

問一 ウ
 二 エ
 三 イ

「分別」は「ぶんべつ」とも「ぶんべつ」とも読みます。「ぶんべつ」は「道理をわきまえること。物事の善悪や損得をよく考えること。」という意味です。「ぶんべつ」と読むと「種類によって区別すること。」といった意味になります。

解説

- ⑨ ① 「分別」は「ぶんべつ」とも「ぶんべつ」とも読みます。「ぶんべつ」は「道理をわきまえること。物事の善悪や損得をよく考えること。」という意味です。「ぶんべつ」と読むと「種類によって区別すること。」といった意味になります。

問三 ――③の7行前「そのありがとうを聞いたとたん、うもつともつとお菓子を渡したい。」に着目すると、雪子からお礼を言われた理沙の喜びを読みとることができます。また、「うちなんか余るほどあるもん」と「ちょっと大きさ」に言っているのは、雪子に遠慮せずにお菓子をもらつてほしいという気持ちの表れだと考えられます。

問六 理沙は雪子からもらった戦時中のおやつを口にしたもの、あまりにものまざさに、すぐに全部吐き出してしまいます。――⑤の3行前「昭和十九年の雪子は、うどんにつらいことだろう。」より、「子どもなんてお菓子を食べるもん」のはずなのに、おいしいお菓子が食べられないからが身にしみてわかり、雪子に同情したのです。

問七 抜き出しの問題です。「臼」を「白」と書き誤らないよう注意しましょう。